

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2771501158		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム緑橋なごみ		
所在地	大阪府大阪市東成区中本3-17-1		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム緑橋なごみの施設理念である「入居者様、ご家族、職員また地域の方々全ての人の尊厳を大切に」を念頭に置き、関係する全ての人に対して分け隔てのないフラットな関係性を作る事を目標にしています。また、日常生活では一から調理を行い、入居者様のご要望を伺い手伝って頂ける事はお願ひし、共同でお菓子作りなども行っています。さらに定期的に特別メニューなど食事レクリエーションも行っています。医療面では准看護師を2名配置しており各フロアの介護職員と連携し、入居者様、職員ともに安心して暮らす、働くことができる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念と各フロアにおいても独自の理念を入居者様と共に考え見易い位置に掲示しています。新しいスタッフが入職されるとまず最初に施設としての理念の説明をしています。そしてこの理念を念頭に置いた上で日々のケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナにより、以前参加していた地域の行事等の参加は見送っている。しかしながら回覧板の参加をさせていただいており、そこから町内の親睦会の参加等の共助関係を今後も継続出来るよう努めいきたい。また、収束後は行事や地域の親睦会にも積極的に参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフにキャラバンメイト養成講習を受講させ、東成区の連絡会に所属している。地元企業が近隣中学校で認知症サポーター講座を開催し、啓発活動を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は書面での開催しています。施設の新聞とアンケート用紙を用いて事業所の取り組みを発信しサービスの評価をして頂き質の向上に取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症に関する市町村からの情報提供や指導を参考に、日々の感染対策等に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一回身体拘束適正委員会を実施、そこで話し合われた内容をフロア会議等に落とし込んで確認、検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	異業種からの新職員には外部研修にて学ぶ機会を与えている。また、フロア会議実施時に定期的にビデオ受講などで再度学習して貰う機会をもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	近年は、後見人制度を利用される方が増えており、職員もその必要性を理解している。(実践者研修等で学ぶ)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様自身に説明する機会は稀であるが、家族様に十分に見学して頂くと同時に説明させて頂き、最期に必ず疑問、質問の御時間を設けさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様、本人様より意見や要望があった際は些細な事でもスタッフ全員で共有・検討し、出来だけ実現出来るよう努力・配慮を行い、困難である場合でも可能な範囲で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はフロア会議には出来る限り参加し、意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃から随時面談も行っており、風通しの良い環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足で大変な時期もあったが現在は多様なシフトで改善されてきている。また、年ごとの昇給も必ずあり行政の最低賃金にも素早く対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、リーダー研修の応募や受講、施設内で初任職員向け認知症サポーター講座を開催し、認知症の方の対応方法や知識を向上する為の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートで開催されるグループホーム交流会並びに管理者交流会に参加、他施設の実践状況を知る機会にもなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と面談させて頂き、お話を聞かせて頂くと同時に家族様や担当ケアマネ、看護師からも情報収集する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り、家族様の立場から、意見や要望を拝聴出来る様にし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を伺い他職種やケアマネージャー等からの意見も参考に対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族として捉え、孫であり、嫁であり、息子、娘であるという思いで関わっている。自らお手伝いをかって出で下さる方々も沢山いらっしゃいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来所時に利用者様の日頃の状態をお伝えし、家族様のご事情等も日々傾聴させて頂いている。また遠方等で来所の難しいご家族様もいらっしゃるのので月に一回近況報告のお手紙を書かせて頂いてる。あわせて家族様からの情報や面会が一番の支援になる事もお伝えさせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍の現状、感染対策をしっかりと行った上で短時間であれば家族様やご友人、ご親戚の方の面会が可能となっており、コロナ収束後は希望があれば外出や外泊等もしていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単なゲームや貼り絵等、スタッフと共に過ごす事でフロアで皆が自然と過ごせる様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居になった方との交流を今も続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の自己決定を尊重し、ケアに努めている。困難な場合は今までの生活歴や性格など、家族から情報を得て出来るだけ本人の立場に立ったケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族には十分な聞き取りを行い把握に努めています。又、在宅時のサービス関係者やケアマネージャーに情報提供を依頼しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握し、ケース記録や介護日誌などに記録し、全職員が確認し申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回フロア会議を実施、日々の変化などを全スタッフが確認し、情報の共有に努め、計画作成するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やフロア会議、申し送り等で得た情報を元に見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため地域の方々との交流は実施できていませんが、これまで地域のボランティアによる音楽会や小学校の行事への参加、クリスマスには地域の子供たちによる紙芝居の会等行ってきました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域の方々との交流は実施できていませんが、これまで地域のボランティアによる音楽会や小学校の行事への参加、クリスマスには地域の子供たちによる紙芝居の会等行ってきました。また利用者様の意向や必要性に応じてボランティア、警察、消防等と協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の連携医療機関について説明をし、今までの掛かりつけ医との選択をして頂き、本人、家族がどのような形で医療を受けたいかも随時確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、准看護師が常勤している為、細かな変化や気づき等もあり、入居者のみならず職員も安心出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に面会に行き、主治医、病棟看護師からも情報収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化に係わる指針の説明をさせて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、急変時の対応についてのマニュアルを作成しています。又、AEDも常置し講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練(一回は夜間想定)又、警察にも緊急連絡先等をお伝えしている。各フロアに火災時マニュアルを置いており、定期的に防火管理者が点検を行っている。何かあれば点検業者や消防署と連携しアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への対応10か条を常に確認し、人格の尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事、配茶等、本人の意向を確認し対応している。また、自己表出が苦手な方においては非言語的表出を注意深く見守り、職員間で情報を共有、そして利用者様本人の思いを汲み取る事が出来たら、提案し自己決定できるように努めていきたいと思ひます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の元々の生活リズムを基本としてその方に沿ったペースで職員が介助を進めており、起床・就寝・食事・入浴時間等も本人様の希望にあわせて随時対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様やご家族様の意向を伺い、定期的に訪問理容を受けて頂いている。衣類等も季節にあったものを家族様に持って頂き、難しい方は家族様に確認をとった上で代理購入させて頂いている。また以前は洗顔フォーム等、本人様が希望される品と一緒にスーパー等に行っていたので、コロナ収束後は引き続き支援していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調や様子を鑑みつつ、職員との会話を楽しみながらお膳拭きやおしぼり作り等を手伝って頂いている。また季節感が感じられるよう旬の果物や土用の丑、また行事の際は利用者様からの意見を伺った上での行事食を提供、楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っています。又、おかゆ・とろみ・ミキサー・刻み等、個々の状態に配慮して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施、自己で行える方は声掛けを行っている。また難しい方にも本人様の状態に合わせて口腔ウエット・スポンジ・歯間ブラシ・口腔ジェル等を使用し、支援させて頂いている。また訪問歯科による衛生管理も実施しており、歯科の先生と情報を共有しながら本人様にあったケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の案内に加えて本人様の訴えがある際はトイレ案内をさせて頂いており、尿意・便意の保持に努めている。また、本人様の表情や様子を伺った上で声掛け案内させて頂くこともある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境の改善には力を入れている。その人の能力にあった運動も声掛けして行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は目安としての曜日は決まってはいるが、その日の本人様の気分や体調などで随時変更対応している。また体力的・身体的に入浴の難しい方にはシャワー浴や清拭を行い少しでも入浴を楽しんで頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重している。またエアコンによる居室の室温調整に加えて、濡れタオルや洗面所に水を張る等して湿度調整も行っており、快適な空間で安心して気持ちよく寝て頂けるよう努めている。また、利用者さまによっては自宅で使っていたタオルケットや枕等を持ってこられ使用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については、変更時、往診時あるいは疑問等がある場合には随時、薬剤師、看護師、主治医に確認している。又副作用、用法、用量についても指示、指導をうけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、歌レク等色々な事に参加して頂きながら、その人自身の楽しみが見つけられる様に支援しています。又些細な事でもお手伝いをして頂いております。コロナ収束後は各利用者様の希望に沿っての外出レクや外食等も予定しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のすぐ近くに公園や神社、スーパー等と外出・散歩に適した環境が揃っているのをご本人様の意向や体調、歩行具合にあわせて外出機会を設けている。ただコロナ禍の制限により以前よりは外出機会が減っているが、気晴らしに加えてなるべく体力の低下を抑える為に施設内の廊下等を一緒に会話しながら散歩する等して支援しており、収束後は積極的に外出する機会を設けていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人に管理して頂き、買い物等もして頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話を希望される方は少数ですが、随時支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りは各フロアで工夫して取り組んでいます。クリスマスツリーの飾りつけや七夕さんの短冊などスタッフと共に楽しんで頂いており、毎月施設の玄関に掲示する貼り絵は各フロアが持ち回りで、スタッフと入居者さまで協力して作成しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者様が気持ちよく過ごして頂けるよう、気のあう利用者様の席を近位にしたり、状況によって変化に対応しています。またソファを設置しているのでそちらでゆっくりと過ごされる方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の馴染みの物を持ってきて頂けるよう声掛けさせて頂いており、居室ベッドに自宅に置いていた人形等を置いて過ごされる方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口には、貼り紙や表札を目印として掲示することで、分かりやすくしています。本人様御一人での行動の際には、行動の制限をしないようにしつつ、見守りや声掛けを行い、安全に配慮しています。		